

経尿道的尿路結石破碎術(TUL)パス 入院診療計画書

URY107

患者ID	主治医	病名	説明日
患者氏名	担当医	管理栄養士	症状 <input type="checkbox"/> 事前検査による異常所見
生年月日:	看護師	特別な栄養管理の必要性	<input type="checkbox"/> 患部の自覚症状
病棟(病室)	薬剤師	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	(疼痛・血尿・頻尿・排尿困難・残尿感)

月日	入院日～前日	手術前
患者目標	不安なく手術を受けることができる	
治療処置 注射 (内服)	現在使用している薬をすべて確認します(現在中止している薬も含む) 入院中に使用する薬について説明します アレルギーの有無等を確認します 手術前日の21時に下剤を内服します	朝の薬は 時 分 に()を 少量の水で内服します 9時頃より点滴を開始します
検査		
食事	常食(必要に応じて治療食)です 手術前日21時以降は食事を摂取することができません 水分(水・お茶のみ)は決められた時間と量で摂取することができます	食事を摂取することができません 水分(水・お茶のみ)は決められた時間と量で摂取することができます
排泄	制限はありません	
清潔	シャワー浴ができます (必要な場合はお手伝いします)	タオルで体を拭くことができます (必要な場合はお手伝いをします)
活動 (安静度)	制限はありません	病棟内でお過ごしください 手術室へ歩いて移動します(状態によっては車椅子やベッドで移動します)
説明 (指導)	入院生活や手術について説明します 義歯・補聴器があるかを確認します ネームバンドを装着します 手術室看護師の訪問があります 麻酔科医師から麻酔について説明があります	手術開始予定時刻は 時 分 です 手術着に着替え、弾性ストッキング(血栓を予防する靴下)を着用します 装身具(眼鏡・時計・義歯・指輪等)を外します ご家族の方は病棟の食堂にてお待ちください (離れる時はスタッフに声をかけてください)
その他		



※転倒転落・せん妄リスクが生じる場合は、適宜観察し対応させていただきます。 上記のとおり説明を受けました 年 月 日

※上記の内容は状態によって変更する場合があります。変更の際は、その都度お伝えします。

注1) 病名等は、現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わり得るものである。 説明を受けた人: 続柄

注2) 入院期間については、現時点で予想されるものである。 (本人・家族) ()

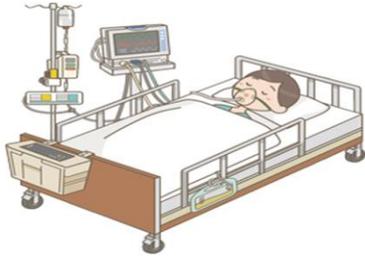
経尿道的尿路結石破碎術(TUL)パス 入院診療計画書

URY107

患者氏名

(性別)

患者ID

月日	手術後	術後1日目
患者目標	術後合併症を起こさない	
治療処置 注射 (内服)	自動血圧計、心電図モニターを装着します 酸素を開始し、足にはフットポンプを装着します (装着時間は状態によって変わります) 点滴をした状態で帰室します(続けて点滴をします)	夕方まで点滴をします
検査		必要時、血液検査をします
食事	手術5時間後に、お腹の動きが確認できたら水分(水・お茶のみ)を摂取することができます(その際はお知らせします)	常食(必要に応じて治療食)です
排泄	尿の管が入っています 排便はベッド上で便器を使用します	歩行開始後はトイレで排便できます
清潔	翌朝まで手術着のままを観察していきます	タオルで体を拭くことができます (必要な場合はお手伝いをします)
活動 (安静度)	翌朝まではベッド上で安静となります 	病棟内でお過ごしください 朝から歩行できます(初回歩行時は、看護師が付き添いをします) 初回歩行後は、ふらつきなどがなければ1人で歩けます 歩行後、弾性ストッキング(血栓を予防する靴下)を脱ぎます (状態によって変更があります)
説明 (指導)	医師の診察があります 尿の管の違和感や痛みが強くなる場合や気分が悪くなったり、身体に異常を感じた時はすぐにお知らせください	手術後数日間、血尿が出る場合があります 看護師が観察し適切な対応をします
その他		

※転倒転落・せん妄リスクが生じる場合は、適宜観察し対応させていただきます。

※上記の内容は状態によって変更する場合があります。変更の際は、その都度お伝えします。

注1) 病名等は、現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わり得るものである。

注2) 入院期間については、現時点で予想されるものである。

経尿道的尿路結石破碎術(TUL)パス 入院診療計画書

URY107

患者氏名 (性別) 患者ID

月日	術後2～4日目 / ~ /	退院日 /
患者目標	日常生活に支障がない状態で退院を迎えることができる	
治療処置 注射 (内服)	状態により尿の管を抜きます	退院時に処方がある場合は、薬剤師からお渡しします (不在の場合には看護師からお渡しする場合があります) ネームバンドを外します 体温計を回収します
検査	必要時、血液検査をします	退院後の過ごし方、次回外来について説明をします 次回の外来予約票と診察券をお渡しします
食事	常食(必要に応じて治療食)です	会計担当者が、お部屋へ伺います(開院日)
排泄	尿の管が抜けたら排尿もトイレを使用します	会計の説明を聞いてからの退院となります (状況によっては、多少お待ち頂く場合がございます)
清潔	尿の管が抜けたらシャワー浴ができます	
活動 (安静度)	制限はありません 	
説明 (指導)	尿の管を抜いた後、排尿時の痛みや血尿が出ることがありますが徐々に落ち着いてきます(状態に応じて必要な対応をします)	
その他		

※転倒転落・せん妄リスクが生じる場合は、適宜観察し対応させていただきます。

※上記の内容は状態によって変更する場合があります。変更の際は、その都度お伝えします。

注1) 病名等は、現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わり得るものである。

注2) 入院期間については、現時点で予想されるものである。